



No.221

ティーブレイク
Tea Break

最近の AI 事情

会員 正林 真之

最近の検索画面等では、自分が検索した結果に基づいて、自分の欲しいものが勝手に予測されて、広告表示されることになる。この広告について、当たっているなあと思う一方で、やっぱりまったく当たっていないと思うこともある。あるいは、「あー、イマイチだな」と思ったりしながら、やはり AI は所詮 AI。やはり不完全だなあと思ったりするものである。

その一方で、我々の業務でも、AI 翻訳や、ときには明細書の自動作成というようなものが行われるようになってきている。AI 翻訳のほうも、最初の頃は何かと不便なことが多く、やはり AI は人間には勝てないのだなあと思ったりしたものである。ところが最近では、翻訳のほうはもう、人間の能力を超えるものが出てきているようである。特に、スピードでは、人間は AI に勝つことは殆ど不可能である。このことについては、AI による商標検索においても証明されていて、精度は人間の方がまだ上だという話であるが、スピードのほうは人間には到底太刀打ちすることができない。

しかしながら、最近の広告等で、例えば「30%オフ。今がチャンス」というような広告があったときには、どうしても、「それは自分の都合だろう」と思ってしまうところがある。これについては、我々の業務でも似たようなことがないだろうかを反省することすらある。つまり、相手のことを思っているようで、実は自分の都合でものを言っているような場合である。

けれども、このように感じるようになったのは、もちろん、お節介ながらもこちらの好みを推測して勧めてくれる AI の影響によるものである。AI によるカスタマイズされた“お勧め広告”から比べれば、「30%オフ。今がチャンス」というような広告というのは、いささか、こちらの都合を考えない自分勝手なもののように思えてきてしまう。

我々特許事務所としても、自分の都合ばかりではなく、相手のニーズをしっかりとつかんで、相手が欲しがらるであろうものを次々と提示していくようであれば、生き残れないのではないかと思う。また、ChatGPT も出てきて、平均的なアドバイスであれば、誰でも短時間で容易に得ることができるようになってきている。

ChatGPT が出てきたことにより、簡単な質問は何かと気軽に GPT に聞くようになってしまっている。何かと話題に上る AI ではあるが、今の自分たちの現状を見るに、もう既にかなりの割合でこの環境に慣らされてしまっている。

どうやら、既に AI には負けていて、これ無しに生きていくことはかなり難しくなっているようだが、ChatGPT4 というのは既に、自らの意思を持ち、新しい ChatGPT を自ら作れるようになってきているとのことである。そうなるともう、これは意思も自己複製脳も持っているわけなのであるから、これはもはや生身の生物と殆ど変わらない。いずれ、マトリックスか、あるいはターミネーターのような世界が来るのかもしれないと思うと恐ろしいが、そういった発明がなされたときに、やはりその発明に携わってみたい、その明細書を是非とも書いてみたいと思うのは、弁理士という職業の宿命なのかもしれない。